

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	富士あけぼの園 吉原中央			
○保護者評価実施期間	2025年10月15日 ~			2025年10月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	20名	(回答者数)	20名
○従業者評価実施期間	2025年10月15日 ~			2025年10月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数)	6名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年11月20日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	情報共有を経て、チーム全体で取り組みが出来ていること。	支援過程で得た情報や保護者様から頂いた意見を基に、毎日カンファレンスを実施している。職員みんなで意見を出し合い、施設全体で対策を醸成し、より良い支援となるよう心掛けている。	職員が固定観念に囚われぬよう、日々情報収集に努めつつ、知識や支援スキルの向上を図って学習し、相乗効果をもたらしてゆく。
2	活動プログラムのバラエティ性が豊かな点。	1ヶ月のプログラム表を利用者様、ご家族様に見て頂いたときに「楽しそう」と思っていただけるよう、活動案を練って作成している。また人気のあるプログラムにおいても、同じことを繰り返すのではなく、複数回参加した利用者様が成長を実感できるような内容にしている。	今後も五領域に沿った新しい活動を開拓してゆき、活動の受け手が新鮮な気持ちで参加できるよう意見を出し合ってゆく。
3	所属する職員が全員有資格者であり、そのノウハウを支援に反映させることができていること。	支援において、視点が固定化してしまうことは様々なリスクを生みかねない。様々な資格や経験を持った職員が、これまでに培ってきたものを活用することで、より専門性・個別性の高い支援が出来る。	研修等を通し、職員一人一人が自身のスキル向上に努める。またPDCAサイクルによるチェックも徹底し、より質の高い支援を実施してゆく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	ステークホルダーに対するアプローチがさらに必要。	今年度は学校や行政との密な連携を図り、他施設とも意見交換を重ねてきた。一昨年に比べてより広い範囲にアプローチをかけ、繋がりを強化してきたが、まだアプローチをかけれていない分野もある為。	どういった機関にアプローチをかけ、繋がりを作っていくのかリストを作成し、計画的に取り組んでゆく。
2	共有されていない情報が出てきてしまう。	日々膨大な情報共有を行う中で、ヒューマンエラーにより情報が行きわたらない事がある。	メモを取るなど基本的な対策は今後も継続し、共有に関してスピーデ感を意識して取り組む。内容や状況によっては臨時カンファレンスを開催し、迅速且つ丁寧で正確な対応を行う。
3	家族会のバージョンアップについて。	当施設では定期的に保護者参加型のプログラムや勉強会を実施している。大勢の保護者様にご参加いただいているが、参加者がやや固定化されつつある。	これまでに参加したことのない保護者様にも参加していただけるよう、家族会の内容や開催時期などを再考し、バージョンアップを図る。